その他の動き

実施日	名称	内容、成果など
10/29	岸輝夫外務大臣科学技術顧問訪問	科学的助言への若手科学者の参画や今後の協力について意見交換を実施。
12/22	日本学術会議 in 京都	分科会を企画・運営（新福、西嶋）。若手アカデミーの紹介を行うとともに、メンバーをパネリストとして、若手が直面する問題、学術界・大学の抱える問題、及びその将来展望について熱く議論した。
3/4	第6回全体会議（東京大学・浅野キャンパス）	2018年度後半の活動をふまえ、今後の活動について議論した。同時に、有志による研究交流会を実施した。
12月～1月	文部科学省科学技術イノベーション政策担当の若手職員を対象にした研修会への参加	研修会にゲスト参加し、政策立案のプロセスを経験するとともに、重要な話題について認識する場となった。
１１月	『学術の動向』１１月号特集	社会連携分科会主導で、上述のシチズンサイエンスに関連した特集を企画。
1月	『学術の動向』１月号特集	ブダペスト宣言20周年を記念して若手アカデミーメンバーで座談会を実施。
3月	『学術の動向』3月号特集	先のINGSAプレワークショップやINGSAへの参加を通じて得られた経験について寄稿した。

-1名退会、1名新規加入があった。
-当初メンバー数が65名であり現在2名減の状態であること、および、年齢や任期の制限に関わる退会が今年度から発生することを鑑みて、メンバー補充について議論し、今年度内に特任連携会員として４名補充を行うこととした。
-岸村代表と新福副代表が文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会の臨時委員に就任。

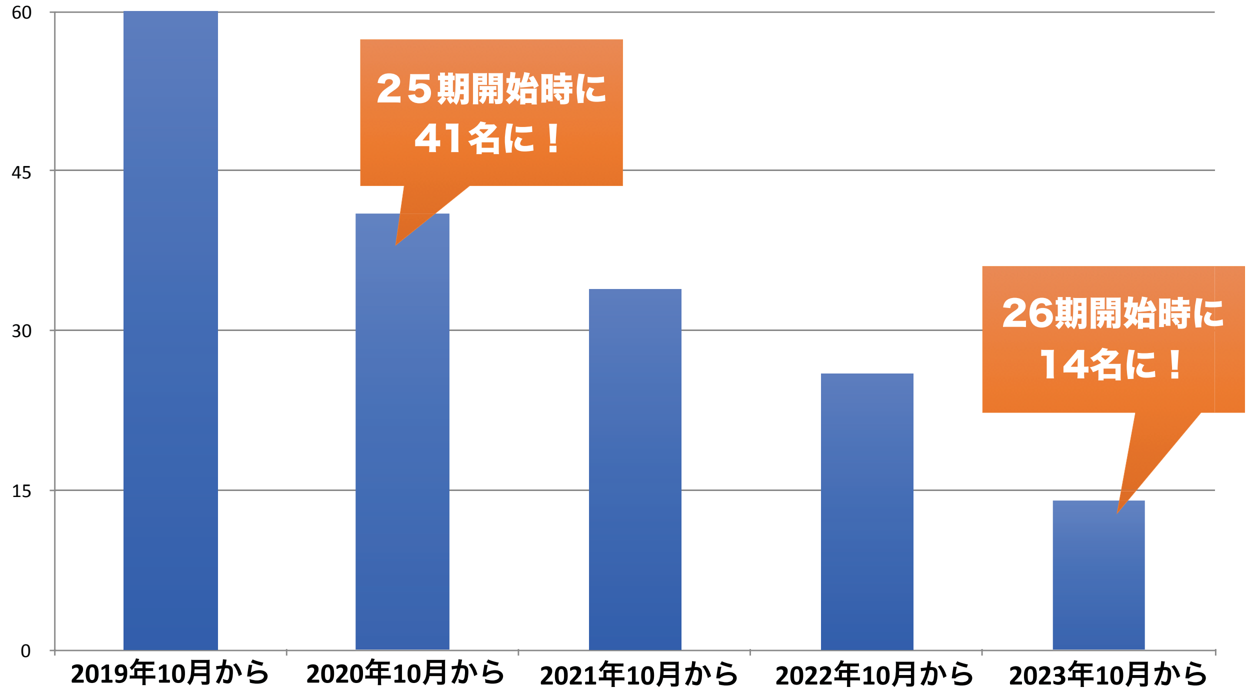
日本学術会議 in 京都

「若手研究者は科学・学術について何を考えているのか」を若手アカデミーが担当（開催地メンバーの新福副代表と西嶋メンバーがコーディネーター）。ファシリテーターに日本医療政策機構の乗竹亮治事務局長を迎え、若手アカデミーの活動、若手研究者が面している課題、今後の展望についてディスカッションを実施。

Slidoを用い、会場から発言を受けながらのディスカッションを行い、その後学生や一般参加者からも積極的な質問があった。
分科会には山極会長、渡辺副会長らにもお越しいただき、終了後には若手アカデミーメンバーと談話。今後のシニアとの連携につながる貴重な機会となった。

現行の運営要綱での現会員数の推移

(2019年2月時点試算; 会員数64名
3月に1名退会したため、現在は63名となっている)



規定による退会者数	４名	１９名	７名	８名	１２名

24期中に特に注意して進めること（updated）

- 社会との距離をつめる

シチズンサイエンス：GYAでも話題。地方展開してサイエンスカフェとも連動。

- 組織の持続性確保

- HPの充実：組織紹介、メンバー紹介、活動の速報性も出す。英語化も推進。
- 若手科学者ネットワークなども活用した活動の周知。
- 広報資料（パンフレット）の作成：関係する人への理解促進、新メンバーリクルートなどのため。
- メンバー間の情報共有と引き継ぎ：仕組みづくりの工夫。

- 地方活性化につながる活動（随時企画中）

- 次世代の声をより効果的に伝えるための取り組み

- 科学的助言に関するキャパシティビルディング。
- 府省庁などとのつながりを深め、政策立案過程に関わる。

パンフレットの作成

平田佐智子メンバーのご厚意により作成できました。

若手アカデミー役員メンバー

代表：岸村顕広
九州大学大学院工学研究院
応用化学部門･九州大学分子
システム科学センター准教授

副代表：新福洋子
京都大学大学院医学研究科
人間健康科学系専攻
家族看護学講座准教授

幹事：岩崎渉
東京大学大学院
理学系研究科准教授

幹事：髙瀬堅吉
自治医科大学大学院
医学研究科教授

皆様の声をお待ちしています
info@youngacademy-japan.org

若手アカデミーの活動に興味を持たれた方へ

01
総会･分科会の傍聴

総会･分科会は公開されています。どのような議論が展開されているか、傍聴いただけます。

02
イベントへの参加

若手科学者サミット、セミナー、シンポジウムも年に数回企画されています。ご参加ください。

03
若手ネットワーク

所属学会の若手の会から、若手科学者ネットワークにご参加ください。若手の会がなければ、立ち上げもご検討ください。

04
公募への応募

不定期に若手アカデミーメンバーの公募を行っています。興味のある方はそうした機会に是非応募ください。

活動の詳細はHPにて
日本語：http://www.scj.go.jp/ja/scj/wakate/
English：http://www.scj.go.jp/en/yaj/

日本学術会議
若手アカデミー

Young Academy of Japan

パンフレットの作成

平田佐智子メンバーのご厚意により作成できました。

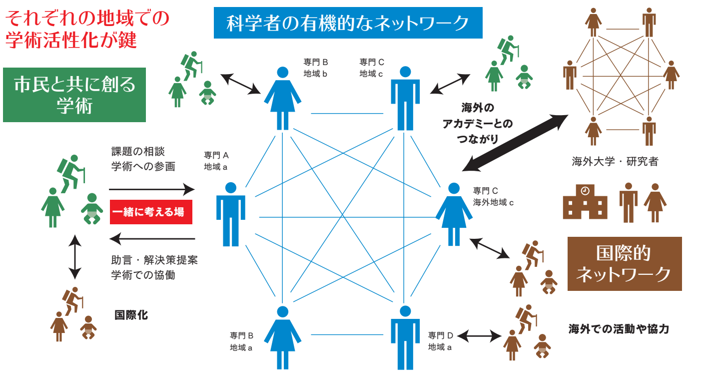
若手研究者の発想を社会の諸問題の解決に活かす

次世代を担う若手科学者の一員として、学術の多様性をもって社会課題の解決に取り組むと同時に、異分野連携や国際交流を通して既存の学術の枠を超えた新たな学術の創造を目指しています。24期は現在63名で活動中です。3年に1回、期の入れ替えがあります。

若手アカデミーの特徴

基本的に縦割りの構造は取らず課題別にグループを設定し、従来の『分野別』では解決困難な課題に柔軟に対応（多様性と機動力を確保して対応）
次の時代に対して責任を取るべき世代としての自覚を持った活動
『高度かつ多様な次世代人材のプール』として社会への窓口・ハブとして機能

若手アカデミーが展開するネットワーク



主な活動

1. 若手科学者の視点を活かした提言
2. 若手科学者ネットワークの運営
3. 若手科学者の意見収集と問題提起
4. 若手科学者の国際交流
5. 産業界、行政、NPO との連携
6. 科学教育の推進
7. その他目的の達成に必要な事業

分科会

- 若手による学術の未来検討分科会
- 若手科学者ネットワーク分科会
- イノベーションに向けた社会連携分科会
- 国際分科会

9

府省庁との関係

-岸村代表と新福副代表が文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会の臨時委員に就任。
-岸輝夫外務大臣科学技術顧問訪問（新福副代表、岩崎幹事、高瀬幹事）
-外務省・科学技術外交推進会議へ参加（新福副代表）
-メンバー数名が研究開発法人に関してヒアリングを受けた。
（文科省関連の内容）
-文部科学省科学技術イノベーション政策の担当若手職員を対象にした研修会へ参加
-文科省との意見交換（研究力向上、人社連携など）
-CSTI審議官と意見交換

-文科省に対して大学国際化関連のヒアリングを実施。
-経産省に対してCITES機関関連のヒアリングを行い、検討会へ参加。

科学者委員会関連

委員会/分科会名称	内容、成果など
科学者委員会	軍事的安全保障研究声明に関する**フォローアップ分科会 に若手アカデミーから2名が委員として参加。**
男女共同参画分科会	「医療界における男女共同参画の推進と課題 」に関するシンポジウムに登壇者紹介。若手アカデミーメンバーが作成に協力したアンケート結果の分析。
研究計画・研究資金検討分科会	マスタープラン関連の議論に参加、若手アカデミー内で情報共有した。
学術体制分科会	若手アカデミーから参画する委員が交代となった。
学術と教育分科会	地方大学、人文社会系学問分野、職業訓練を主たる業務とした大学の今後の在り方についての議論している旨が共有された。
学協会連携分科会	提言「学協会に係る法人制度—運用の見直し、改善等について」を若手アカデミー内で紹介し、議論した。
研究評価分科会	**若手アカデミーから2名が委員として参加。**

主な活動予定(2019年9月まで)

予定日	名称	予定される内容
4/9-11	IAP conference（韓国）	新福副代表が招待された。
4/28-5/3	国際代表派遣・GYA annual general meeting（ドイツ）	GYAの年次総会に3名の若手アカデミーメンバーが参加予定。
7/31-8/2	国際代表派遣・第4回各国若手アカデミー会議 WWMYA2019（ベトナム）	若手アカデミーメンバーを派遣予定。
7月頃	地方開催企画・大学国際化に向けた準備会議	地方の成功事例に学ぶべく、別府開催をにらんで現在調整中。
8月頃	全体会議	全体会議を予定、日程調整中。

-シチズンサイエンスに関する意見発出の準備を進める。

-新メンバー（特任連携会員）の補充を進める。

21